

キーワード：褥瘡の予防対策 01 問

あ 11-103 仙骨部褥瘡の予防対策で誤っているのはどれか。

1. 栄養状態を良くする。
2. 頻回に体位変換を行う。
3. 仙骨部周囲を清潔に保つ。
4. 発赤した皮膚を強く擦る。

キーワード：自律神経障 01 問

あ 26-88 自律神経障害で生じる症状はどれか。

1. 皮膚の循環障害
2. 筋萎縮
3. 知覚脱失
4. 変 形

キーワード：脊髄小脳変性症 01 問

あ 28-90 脊髄小脳変性症の失調症状に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 発症早期から車椅子操作訓練を行う。
2. 上肢に重錘を巻くと歩行が安定する。
3. 立位姿勢でのバランス訓練が有効である。
4. メトロノームを用いた歩行訓練が有効である。

キーワード：パーキンソン病 07 問

あ 27-90 パーキンソン病の症状で誤っているのはどれか。

1. 振 戦
2. 片麻痺
3. すくみ足
4. 仮面様顔貌

はき 27-88 パーキンソン病の歩行障害に対する訓練で最も有効なのはどれか。

1. つぎ足歩行訓練
2. 松葉杖を用いた歩行訓練
3. 両長下肢装具を用いた歩行訓練
4. メトロノームによるリズム歩行訓練

はき 24-88 パーキンソン病のヤール分類とリハビリテーションの組合せで最も適切なのはどれか。

1. ステージⅠ —— 歩行訓練
2. ステージⅡ —— 立ち上がり動作訓練
3. ステージⅢ —— 立位バランス訓練
4. ステージⅣ —— 電動車椅子操作訓練

あ 25-90 パーキンソン病にみられる症状はどれか。

1. 痙縮
2. 企図振戦
3. 鉛管現象
4. 折りたたみナイフ現象

あ 24-90 パーキンソン病のリハビリテーションについて正しいのはどれか。【解答2つ】

1. 末期には無効である。
2. 寒冷療法が有効である。
3. 筋力訓練は無効である。
4. 薬が効いているときに行う。

あ 23-90 パーキンソン病患者に対する歩行訓練で最も有効なのはどれか。

1. できるだけ速く歩く。
2. 方向転換を繰り返す。
3. 止まってから歩く動作を繰り返す。
4. 横に引いた線をまたぎながら歩く。

あ 12-102 パーキンソン病にみられる運動障害で適切でないのはどれか。

1. 折りたたみナイフ現象
2. リズム形成障害
3. すくみ現象
4. 運動の切り換え困難

キーワード：筋萎縮性側索硬化症 02問

はき 26-81 筋萎縮性側索硬化症患者における人工呼吸器装着後のリハビリテーションで適切なのはどれか。

1. 歩行訓練
2. 更衣訓練
3. 排痰訓練
4. 起き上がり訓練

はき 23-88 重症の筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーションとして最も必要なのはどれか。

1. 低出力レーザーによる温熱療法
2. ペグボードによる巧緻動作訓練
3. バランスボードによるバランス訓練
4. 意思伝達装置によるコミュニケーション訓練

キーワード：失行 01問

はき 12-93 母指と示指で輪を作ることが模倣できない患者で疑われるのはどれか。【解答2つ】

1. 半側空間無視
2. 構成失行
3. 観念失行
4. 観念運動失行

キーワード：失語症 08問

あ 20-96 ブローカ失語の特徴として正しい記述はどれか。

1. 復唱は障害されない。
2. 錯語がある。
3. 発話は非流暢性である。
4. 口頭指示に従えない。

あ 9-99 感覚性失語症がみられるのはどれか。

1. 前頭葉障害
2. 側頭葉障害
3. 頭頂葉障害
4. 後頭葉障害

あ 28-81 運動性失語症の特徴で正しいのはどれか。

1. 劣位半球損傷で生じることが多い。
2. 障害言語野はウェルニッケ中枢である。
3. 頭に浮かんだ言葉が発語できない。
4. 正確な評価には MMSE を用いる。

はき 24-81 標準失語症検査においてブローカ失語の正解率が最も低い項目はどれか。

1. 聴く
2. 読む
3. 話す
4. 復唱

はき 15-90 ウェルニッケ失語で正しいのはどれか。

1. 流暢な発話
2. 聴覚の異常
3. 麻痺性構音障害
4. 見当意識障害

はき 4-93 失語症について誤っている記述はどれか。

1. 運動性失語は発声器官が正常でも起こる。
2. 大脳の劣位半球障害で起こる。
3. 言語訓練には家族の協力をも求める。
4. 言語訓練の内容は失語症の種類により異なる。

あ 1-105 失語症で誤っているのはどれか。

1. 失語症は普通、右側の脳障害で起こる。
2. 失語症には運動性と感覚性とがある。
3. 言語障害には自然回復がある。
4. 言語訓練は聴覚と視覚とを繰り返し刺激して行う。

はき 2-92 言語障害について誤っている組み合わせはどれか。

1. 運動性失語症 — ブローカ中枢
2. 感覚性失語症 — ウェルニッケの中枢
3. 構音障害 — 体性感覚野
4. 失語症 — 左側大脳半球損傷

キーワード：球麻痺 01 問

はき 27-82 球麻痺の原因となる病巣はどれか。

1. 延髄
2. 海馬
3. 前頭葉
4. 小脳半球

キーワード：痙性麻痺 02 問

あ 12-104 下肢の痙性麻痺がみられるのはどれか。

1. 頸髄損傷不全麻痺
2. 腰椎椎間板ヘルニア
3. 閉塞性動脈硬化症
4. 総腓骨神経麻痺

あ 11-105 痙性麻痺を呈するのはどれか。

1. 頸椎症性脊髄症
2. 腕神経叢麻痺
3. ポリオ
4. 手根管症候群

キーワード：サルコペニア 01 問

はき 26-87 サルコペニアで必ず減少するのはどれか。

1. 骨密度
2. 骨格筋量
3. 循環血流量
4. 脂肪量

キーワード：動作 06 問

はき 20-86 正常な6か月児で可能な動作はどれか。

1. おもちゃをつかむ。
2. ビー玉をつまむ。
3. 手放しで立つ。
4. ひとり歩きをする。

あ 21-94 検者が母指と示指で輪を作り、それを模倣させる動作ができない時に疑われる高次脳機能障害はどれか。

1. 失行
2. 失語
3. 失認
4. 失見当識

あ 8-102 片麻痺患者の3動作での平行棒内歩行で正しい順序はどれか。

1. 手 → 患側 → 健側
2. 手 → 健側 → 患側
3. 患側 → 手 → 健側
4. 健側 → 手 → 患側

あ 6-99 関節の運動方向と動作との組合せで正しいのはどれか。

1. 母指の対立 ————— 物をつまむ。
2. 前腕の回内 ————— 顔を洗う。
3. 肩の伸展 ————— 手を前にあげる。
4. 股関節の内旋 ————— あぐらをかく。

あ 13-101 前腕が回外位となる動作はどれか。

1. ピアノを弾く。
2. 瓶のふたを開ける。
3. 床に雑巾がけをする。
4. 両手で水をすくう。

あ 11-102 動作と関節の運動方向との組合せで正しいのはどれか。

1. ワイシャツのボタンをかける — 肩関節外旋
2. 顔を洗う — 前腕回外
3. あぐらをかく — 股関節内旋
4. 背伸びをする — 足関節伸展

キーワード：嚥下機能障害 01問

はき 20-87 嚥下機能障害に対するスクリーニングとして用いられる検査はどれか。

1. 水飲みテスト
2. 嚥下造影検査
3. 血清CRP
4. 胸部単純エックス線検査

はき 20-89 上肢の屈筋共同運動で正しい組合せはどれか。

1. 肩甲帯 — 下制
2. 肩関節 — 内旋
3. 肘関節 — 屈曲
4. 前腕 — 回内

はき 18-89 下肢のブルンストロームステージで「共同運動がわずかに出現し、痙性が出始める。」のはどれか。

1. ステージⅠ
2. ステージⅡ
3. ステージⅢ
4. ステージⅣ

あ 15-98 ブルンストロームステージで「痙性が高度であり、随意的な共同運動は十分にできるが分離運動はできない。」のはどれか。

1. ステージⅡ
2. ステージⅢ
3. ステージⅣ
4. ステージⅤ

あ 12-101 片麻痺の伸展共同運動でみられるのはどれか。

1. 肩甲帯挙上
2. 肩関節外転
3. 肩関節外旋
4. 前腕回内

はき 19-86 高次機能障害とその症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 失語症 — 書字が小さくなる
2. 相貌失認 — 簡単な手指の模倣ができない
3. 半側空間失認 — 片側の見落とし
4. 失行 — 集中力の低下

はき 17-88 高次脳機能障害はどれか。

1. 半側空間無視
2. 意識障害
3. 食欲亢進
4. 不眠

キーワード：肩甲上腕リズム 01問

はき 19-88 肩甲上腕リズムで正しいのはどれか。

1. 肩甲骨上方回旋 15 度・肩関節外転 75 度
2. 肩甲骨上方回旋 30 度・肩関節外転 60 度
3. 肩甲骨上方回旋 60 度・肩関節外転 30 度
4. 肩甲骨上方回旋 75 度・肩関節外転 15 度

キーワード：肩関節 肩関節周囲炎 五十肩 10問

はき 10-90 肩腱板を形成しない筋はどれか。

1. 大円筋
2. 肩甲下筋
3. 棘上筋
4. 小円筋

あ 1-98 肩関節について誤っているのはどれか。

1. 球関節である。
2. 屈曲とは上腕の前方挙上のことである。
3. 肩の運動の際には鎖骨も同時に動く。
4. 大胸筋により外転する。

あ 4-99 肩関節の運動で誤っているのはどれか。

1. 屈曲
2. 内旋
3. 内転
4. 回内

あ 10-98 肩関節の運動方向で誤っているのはどれか。

1. 伸 展
2. 外 転
3. 内 旋
4. 外 反

あ 9-100 肩関節の外転運動に関与しないのはどれか。

1. 胸鎖関節
2. 胸肋関節
3. 肩鎖関節
4. 肩甲上腕関節

はき 17-86 肩関節の外転運動で誤っている記述はどれか。

1. 肩甲骨は上方回旋する。
2. 肩甲骨と肩甲上腕関節の動きの割合はおよそ 2 対 1 である。
3. 腱板は上腕骨頭を肩甲骨関節窩に保持、安定させる。
4. 鎖骨が同時に動く。

あ 27-89 肩関節周囲炎に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. ウィリアムズ体操
2. コッドマン体操
3. フレンケル体操
4. バージャー体操

あ 23-89 肩関節周囲炎に対するコッドマン体操について正しいのはどれか。

1. 直立姿勢で行う。
2. 左右方向には動かさない。
3. おもりは 100g より重くしない。
4. 疼痛が軽減してから開始する。

あ 18-100 肩関節周囲炎のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 疼痛が治まるまでは肩関節を安静にする。
2. 拘縮に対してウィリアムズ体操を指導する。
3. 運動の前には温熱療法を併用する。
4. 夜間に肩をクーリングする。

あ 4-106 五十肩について誤っている記述はどれか。

1. 肩関節周囲炎とも呼ばれる。
2. 疼痛が治まるまで安静にする。
3. 運動前に温熱療法を行う。
4. 拘縮に対し滑車訓練を行う。

キーワード：内部障害 03問

はき 16-84 内部障害に含まれるのはどれか。

1. そしゃく機能障害
2. 小腸機能障害
3. 脊髄機能障害
4. 高次脳機能障害

はき 9-89 内部障害はどれか。

1. 視覚障害
2. 聴覚言語障害
3. 肢体不自由
4. 膀胱直腸障害

はき 6-89 内部障害に含まれないのはどれか。

1. 聴覚障害
2. 腎障害
3. 呼吸器障害
4. 循環器障害

キーワード：長期臥床 01問

はき 14-91 長期臥床でみられやすい拘縮として誤っているのはどれか。

1. 肩関節屈曲
2. 股関節屈曲
3. 膝関節屈曲
4. 足関節屈曲（底屈）

はき 13-91 廃用症候群の症候として正しいのはどれか。

1. 意識障害
2. 関節拘縮
3. 尿失禁
4. けいれん

はき 10-91 廃用症候群に含まれないのはどれか。

1. 筋萎縮
2. 麻痺
3. 関節拘縮
4. 褥瘡

あ 15-95 廃用症候群に含まれないのはどれか。

1. 胆石
2. 骨萎縮
3. 起立性低血圧
4. 沈下性肺炎

あ 12-103 廃用症候群でみられるのはどれか。

1. 肥満
2. 筋肥大
3. 肝硬変
4. 尿路結石

はき 13-92 下肢の筋緊張が増強しないのはどれか。

1. 頸髄不全麻痺
2. パーキンソン病
3. 痙直型脳性麻痺
4. 腰椎椎間板ヘルニア

あ 15-96 下肢の筋緊張が増強するのはどれか。

1. 腰部脊柱管狭窄症
2. 坐骨神経麻痺
3. 胸髄損傷
4. ポリオ

キーワード：末梢神経損傷 末梢神経障害 末梢神経麻痺 05問

はき 18-91 四肢の末梢神経麻痺のリハビリテーションで行わないのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 低周波治療
3. 装具療法
4. 温熱療法

あ 20-100 末梢神経の障害で驚手を起こすのはどれか。

1. 正中神経
2. 尺骨神経
3. 橈骨神経
4. 腋窩神経

はき 8-95 末梢神経損傷におけるリハビリテーションとその目的との組合せで誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練 — 拘縮の予防
2. 自動介助運動 — 筋の再教育
3. 装具の装着 — 変形の予防
4. 自助具の使用 — 筋力の強化

はき 5-96 末梢神経損傷で誤っている記述はどれか。

1. 神経伝導速度検査で異常を示す。
2. 支配領域の発汗障害をきたす。
3. 損傷軸索の再生時にチネル徴候がみられる。
4. ニューラプラキシアは神経の完全切断である。

はき 16-91 橈骨神経麻痺に伴う症状として誤っているのはどれか。

1. 下垂手
2. 母指球筋の萎縮
3. 手背の知覚障害
4. 手背の発汗障害

はき 17-85 足の内側縦アーチを構成する骨で誤っているのはどれか。

1. 踵骨
2. 舟状骨
3. 立方骨
4. 第1中足骨

はき 10-89 関節運動で伸展 40° が可能な関節はどれか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 股関節
4. 膝関節

あ 8-100 関節の種類でラセン関節に分類されるのはどれか。

1. 橈骨手根関節
2. 第1手根中手関節
3. 距腿関節
4. 肩関節

あ 2-101 脊柱について正しい記述はどれか。

1. 頸椎には回旋できる部分がある。
2. 胸椎は前弯している。
3. 腰椎は最も可動性が大きい。
4. 仙椎が前傾すると円背となる。

はき 9-90 手根管を通過しないのはどれか。

1. 浅指屈筋腱
2. 深指屈筋腱
3. 正中神経
4. 尺骨神経

あ 7-99 前腕にのみみられる動きはどれか。

1. 回内
2. 屈曲
3. 伸展
4. 内転

はき 2-90 手の内在筋はどれか。

1. 浅指屈筋
2. 深指屈筋
3. 指伸筋
4. 虫様筋

あ 28-83 下肢の運動と筋の組合せで正しいのはどれか。

1. 股関節の伸展 —— 半膜様筋
2. 股関節の内旋 —— 外閉鎖筋
3. 膝関節の伸展 —— 縫工筋
4. 母趾の背屈 —— 長趾伸筋

キーワード：筋収縮 03問

あ 23-82 筋が伸長しながら収縮するのはどれか。

1. 強 縮
2. 単収縮
3. 遠心性収縮
4. 等尺性収縮

はき 5-90 筋収縮について正しい記述はどれか。

1. 等張性収縮は等尺性収縮より筋持久力の増大効果がある。
2. 等張性収縮は等尺性収縮より循環器系へ負担がかかる。
3. 等張性収縮はギプス固定中の関節の運動に適している。
4. 等尺性収縮は遠心性収縮と求心性収縮とに分けられる。

はき 1-91 筋収縮について誤っているのはどれか。

1. 求心性収縮とは張力を発生しながら筋肉の長さが短くなること。
2. 遠心性収縮とは張力発生の方で筋肉の長さが長くなること。
3. 等尺性収縮とは張力を発生するが筋肉の長さは変わらないこと。
4. 等張性収縮とは筋肉の長さの変化に応じて張力が等しく発生すること。

キーワード：深部感覚 01問

あ 3-100 深部感覚でないのはどれか。

1. 温度覚
2. 位置覚
3. 運動覚
4. 振動覚

キーワード：摂食嚥下障害 01問

あ 25-82 摂食嚥下障害に対する対応として誤っているのはどれか。

1. 口腔ケア
2. 食形態の調整
3. 栄養管理
4. 頸椎伸展位での食事

キーワード：錐体路障害 02問

あ 21-93 錐体路障害で生じるのはどれか。

1. 固縮
2. 鉛管現象
3. 共同運動
4. 腱反射消失

あ 25-83 錐体路の障害で生じるのはどれか。

1. アテトーゼ
2. 痙性麻痺
3. 運動失調
4. 筋の固縮

キーワード：錐体外路障害 01問

あ 20-97 錐体外路障害の症状はどれか。

1. 協調運動障害
2. 痙性麻痺
3. 固有感覚障害
4. 温痛覚低下

キーワード：運動障害 01 問

あ 10-97 運動障害について誤っている組合せはどれか。

1. 錐体路障害 ————— 痙性麻痺
2. 錐体外路障害 ————— 不随意運動
3. 脊髄損傷 ————— 固 縮
4. 末梢神経損傷 ————— 弛緩性麻痺

キーワード：小脳性失調 02 問

はき 22-85 小脳性失調の所見として正しいのはどれか。

1. 構音障害
2. 羽ばたき振戦
3. はさみ脚歩行
4. ロンベルグ徴候陽性

あ 24-80 失調症の検査として正しいのはどれか。

1. 指鼻試験
2. 徒手筋力検査
3. カロリックテスト
4. トレンデレンブルグ徴候

キーワード：褥瘡の予防対策 01 問

あ 11-103 仙骨部褥瘡の予防対策で誤っているのはどれか。

1. 栄養状態を良くする。
2. 頻回に体位変換を行う。
3. 仙骨部周囲を清潔に保つ。
4. 発赤した皮膚を強く擦る。

キーワード：自律神経障 01 問

あ 26-88 自律神経障害で生じる症状はどれか。

1. 皮膚の循環障害
2. 筋萎縮
3. 知覚脱失
4. 変形

キーワード：脊髄小脳変性症 01 問

あ 28-90 脊髄小脳変性症の失調症状に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 発症早期から車椅子操作訓練を行う。
2. 上肢に重錘を巻くと歩行が安定する。
3. 立位姿勢でのバランス訓練が有効である。
4. メトロノームを用いた歩行訓練が有効である。

キーワード：パーキンソン病 07 問

あ 27-90 パーキンソン病の症状で誤っているのはどれか。

1. 振戦
2. 片麻痺
3. すくみ足
4. 仮面様顔貌

はき 27-88 パーキンソン病の歩行障害に対する訓練で最も有効なのはどれか。

1. つぎ足歩行訓練
2. 松葉杖を用いた歩行訓練
3. 両長下肢装具を用いた歩行訓練
4. **メトロノームによるリズム歩行訓練**

はき 24-88 パーキンソン病のヤール分類とリハビリテーションの組合せで最も適切なのはどれか。

1. ステージⅠ —— 歩行訓練
2. ステージⅡ —— 立ち上がり動作訓練
3. **ステージⅢ —— 立位バランス訓練**
4. ステージⅣ —— 電動車椅子操作訓練

あ 25-90 パーキンソン病にみられる症状はどれか。

1. 痙縮
2. 企図振戦
3. **鉛管現象**
4. 折りたたみナイフ現象

あ 24-90 パーキンソン病のリハビリテーションについて正しいのはどれか。【解答2つ】

1. 末期には無効である。
2. 寒冷療法が有効である。
3. **筋力訓練は無効である。**
4. **薬が効いているときに行う。**

あ 23-90 パーキンソン病患者に対する歩行訓練で最も有効なのはどれか。

1. できるだけ速く歩く。
2. 方向転換を繰り返す。
3. 止まってから歩く動作を繰り返す。
4. **横に引いた線をまたぎながら歩く。**

あ 12-102 パーキンソン病にみられる運動障害で適切でないのはどれか。

1. **折りたたみナイフ現象**
2. リズム形成障害
3. すくみ現象
4. 運動の切り換え困難

キーワード：筋萎縮性側索硬化症 02問

はき 26-81 筋萎縮性側索硬化症患者における人工呼吸器装着後のリハビリテーションで適切なのはどれか。

1. 歩行訓練
2. 更衣訓練
3. 排痰訓練
4. 起き上がり訓練

はき 23-88 重症の筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーションとして最も必要なのはどれか。

1. 低出力レーザーによる温熱療法
2. ペグボードによる巧緻動作訓練
3. バランスボードによるバランス訓練
4. 意思伝達装置によるコミュニケーション訓練

キーワード：失行 01問

はき 12-93 母指と示指で輪を作ることが模倣できない患者で疑われるのはどれか。【解答2つ】

1. 半側空間無視
2. 構成失行
3. 観念失行
4. 観念運動失行

キーワード：失語症 08問

あ 20-96 ブローカ失語の特徴として正しい記述はどれか。

1. 復唱は障害されない。
2. 錯語がある。
3. 発話は非流暢性である。
4. 口頭指示に従えない。

あ 9-99 感覚性失語症がみられるのはどれか。

1. 前頭葉障害
2. 側頭葉障害
3. 頭頂葉障害
4. 後頭葉障害

あ 28-81 運動性失語症の特徴で正しいのはどれか。

1. 劣位半球損傷で生じることが多い。
2. 障害言語野はウェルニッケ中枢である。
3. 頭に浮かんだ言葉が発語できない。
4. 正確な評価には MMSE を用いる。

はき 24-81 標準失語症検査においてブローカ失語の正解率が最も低い項目はどれか。

1. 聴く
2. 読む
3. 話す
4. 復唱

はき 15-90 ウェルニッケ失語で正しいのはどれか。

1. 流暢な発話
2. 聴覚の異常
3. 麻痺性構音障害
4. 見当意識障害

はき 4-93 失語症について誤っている記述はどれか。

1. 運動性失語は発声器官が正常でも起こる。
2. 大脳の劣位半球障害で起こる。
3. 言語訓練には家族の協力をも求める。
4. 言語訓練の内容は失語症の種類により異なる。

あ 1-105 失語症で誤っているのはどれか。

1. 失語症は普通、右側の脳障害で起こる。
2. 失語症には運動性と感覚性とがある。
3. 言語障害には自然回復がある。
4. 言語訓練は聴覚と視覚とを繰り返し刺激して行う。

はき 2-92 言語障害について誤っている組み合わせはどれか。

1. 運動性失語症 — ブローカ中枢
2. 感覚性失語症 — ウェルニッケの中枢
3. 構音障害 — 体性感覚野
4. 失語症 — 左側大脳半球損傷

キーワード：球麻痺 01 問

はき 27-82 球麻痺の原因となる病巣はどれか。

1. 延髄
2. 海馬
3. 前頭葉
4. 小脳半球

キーワード：痙性麻痺 02 問

あ 12-104 下肢の痙性麻痺がみられるのはどれか。

1. 頸髄損傷不全麻痺
2. 腰椎椎間板ヘルニア
3. 閉塞性動脈硬化症
4. 総腓骨神経麻痺

あ 11-105 痙性麻痺を呈するのはどれか。

1. 頸椎症性脊髄症
2. 腕神経叢麻痺
3. ポリオ
4. 手根管症候群

キーワード：サルコペニア 01 問

はき 26-87 サルコペニアで必ず減少するのはどれか。

1. 骨密度
2. 骨格筋量
3. 循環血流量
4. 脂肪量

キーワード：動作 06 問

はき 20-86 正常な6か月児で可能な動作はどれか。

1. おもちゃをつかむ。
2. ビー玉をつまむ。
3. 手放しで立つ。
4. ひとり歩きをする。

あ 21-94 検者が母指と示指で輪を作り、それを模倣させる動作ができない時に疑われる高次脳機能障害はどれか。

1. 失行
2. 失語
3. 失認
4. 失見当識

あ 8-102 片麻痺患者の3動作での平行棒内歩行で正しい順序はどれか。

1. 手 → 患側 → 健側
2. 手 → 健側 → 患側
3. 患側 → 手 → 健側
4. 健側 → 手 → 患側

あ 6-99 関節の運動方向と動作との組合せで正しいのはどれか。

1. 母指の対立 ———— 物をつまむ。
2. 前腕の回内 ———— 顔を洗う。
3. 肩の伸展 ———— 手を前にあげる。
4. 股関節の内旋 ———— あぐらをかく。

あ 13-101 前腕が回外位となる動作はどれか。

1. ピアノを弾く。
2. 瓶のふたを開ける。
3. 床に雑巾がけをする。
4. 両手で水をすくう。

あ 11-102 動作と関節の運動方向との組合せで正しいのはどれか。

1. ワイシャツのボタンをかける — 肩関節外旋
2. 顔を洗う — 前腕回外
3. あぐらをかく — 股関節内旋
4. 背伸びをする — 足関節伸展

キーワード：嚥下機能障害 01問

はき 20-87 嚥下機能障害に対するスクリーニングとして用いられる検査はどれか。

1. 水飲みテスト
2. 嚥下造影検査
3. 血清CRP
4. 胸部単純エックス線検査

はき 20-89 上肢の屈筋共同運動で正しい組合せはどれか。

1. 肩甲帯 — 下制
2. 肩関節 — 内旋
3. 肘関節 — 屈曲
4. 前腕 — 回内

はき 18-89 下肢のブルンストロームステージで「共同運動がわずかに出現し、痙性が出始める。」のはどれか。

1. ステージⅠ
2. ステージⅡ
3. ステージⅢ
4. ステージⅣ

あ 15-98 ブルンストロームステージで「痙性が高度であり、随意的な共同運動は十分にできるが分離運動はできない。」のはどれか。

1. ステージⅡ
2. ステージⅢ
3. ステージⅣ
4. ステージⅤ

あ 12-101 片麻痺の伸展共同運動でみられるのはどれか。

1. 肩甲帯挙上
2. 肩関節外転
3. 肩関節外旋
4. 前腕回内

はき 19-86 高次機能障害とその症状との組合せで正しいのはどれか。

1. 失語症 — 書字が小さくなる
2. 相貌失認 — 簡単な手指の模倣ができない
3. 半側空間失認 — 片側の見落とし
4. 失行 — 集中力の低下

はき 17-88 高次脳機能障害はどれか。

1. 半側空間無視
2. 意識障害
3. 食欲亢進
4. 不眠

キーワード：肩甲上腕リズム 01 問

はき 19-88 肩甲上腕リズムで正しいのはどれか。

1. 肩甲骨上方回旋 15 度・肩関節外転 75 度
2. 肩甲骨上方回旋 30 度・肩関節外転 60 度
3. 肩甲骨上方回旋 60 度・肩関節外転 30 度
4. 肩甲骨上方回旋 75 度・肩関節外転 15 度

キーワード：肩関節 肩関節周囲炎 五十肩 10 問

はき 10-90 肩腱板を形成しない筋はどれか。

1. 大円筋
2. 肩甲下筋
3. 棘上筋
4. 小円筋

あ 1-98 肩関節について誤っているのはどれか。

1. 球関節である。
2. 屈曲とは上腕の前方挙上のことである。
3. 肩の運動の際には鎖骨も同時に動く。
4. 大胸筋により外転する。

あ 4-99 肩関節の運動で誤っているのはどれか。

1. 屈曲
2. 内旋
3. 内転
4. 回内

あ 10-98 肩関節の運動方向で誤っているのはどれか。

1. 伸 展
2. 外 転
3. 内 旋
4. 外 反

あ 9-100 肩関節の外転運動に関与しないのはどれか。

1. 胸鎖関節
2. 胸肋関節
3. 肩鎖関節
4. 肩甲上腕関節

はき 17-86 肩関節の外転運動で誤っている記述はどれか。

1. 肩甲骨は上方回旋する。
2. 肩甲骨と肩甲上腕関節の動きの割合はおよそ2対1である。
3. 腱板は上腕骨頭を肩甲骨関節窩に保持、安定させる。
4. 鎖骨が同時に動く。

あ 27-89 肩関節周囲炎に対するリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. ウィリアムズ体操
2. コッドマン体操
3. フレンケル体操
4. バージャー体操

あ 23-89 肩関節周囲炎に対するコッドマン体操について正しいのはどれか。

1. 直立姿勢で行う。
2. 左右方向には動かさない。
3. おもりは100gより重くしない。
4. 疼痛が軽減してから開始する。

あ 18-100 肩関節周囲炎のリハビリテーションで正しい記述はどれか。

1. 疼痛が治まるまでは肩関節を安静にする。
2. 拘縮に対してウィリアムズ体操を指導する。
3. 運動の前には温熱療法を併用する。
4. 夜間に肩をクーリングする。

あ 4-106 五十肩について誤っている記述はどれか。

1. 肩関節周囲炎とも呼ばれる。
2. 疼痛が治まるまで安静にする。
3. 運動前に温熱療法を行う。
4. 拘縮に対し滑車訓練を行う。

キーワード：内部障害 03問

はき 16-84 内部障害に含まれるのはどれか。

1. そしゃく機能障害
2. 小腸機能障害
3. 脊髄機能障害
4. 高次脳機能障害

はき 9-89 内部障害はどれか。

1. 視覚障害
2. 聴覚言語障害
3. 肢体不自由
4. 膀胱直腸障害

はき 6-89 内部障害に含まれないのはどれか。

1. 聴覚障害
2. 腎障害
3. 呼吸器障害
4. 循環器障害

キーワード：長期臥床 01問

はき 14-91 長期臥床でみられやすい拘縮として誤っているのはどれか。

1. 肩関節屈曲
2. 股関節屈曲
3. 膝関節屈曲
4. 足関節屈曲（底屈）

はき 13-91 廃用症候群の症候として正しいのはどれか。

1. 意識障害
2. 関節拘縮
3. 尿失禁
4. けいれん

はき 10-91 廃用症候群に含まれないのはどれか。

1. 筋萎縮
2. 麻痺
3. 関節拘縮
4. 褥瘡

あ 15-95 廃用症候群に含まれないのはどれか。

1. 胆石
2. 骨萎縮
3. 起立性低血圧
4. 沈下性肺炎

あ 12-103 廃用症候群でみられるのはどれか。

1. 肥満
2. 筋肥大
3. 肝硬変
4. 尿路結石

はき 13-92 下肢の筋緊張が増強しないのはどれか。

1. 頸髄不全麻痺
2. パーキンソン病
3. 痙直型脳性麻痺
4. 腰椎椎間板ヘルニア

あ 15-96 下肢の筋緊張が増強するのはどれか。

1. 腰部脊柱管狭窄症
2. 坐骨神経麻痺
3. 胸髄損傷
4. ポリオ

キーワード：末梢神経損傷 末梢神経障害 末梢神経麻痺 05 問

はき 18-91 四肢の末梢神経麻痺のリハビリテーションで行わないのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 低周波治療
3. 装具療法
4. 温熱療法

あ 20-100 末梢神経の障害で驚手を起こすのはどれか。

1. 正中神経
2. 尺骨神経
3. 橈骨神経
4. 腋窩神経

はき 8-95 末梢神経損傷におけるリハビリテーションとその目的との組合せで誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練 — 拘縮の予防
2. 自動介助運動 — 筋の再教育
3. 装具の装着 — 変形の予防
4. 自助具の使用 — 筋力の強化

はき 5-96 末梢神経損傷で誤っている記述はどれか。

1. 神経伝導速度検査で異常を示す。
2. 支配領域の発汗障害をきたす。
3. 損傷軸索の再生時にチネル徴候がみられる。
4. ニューラプラキシアは神経の完全切断である。

はき 16-91 橈骨神経麻痺に伴う症状として誤っているのはどれか。

1. 下垂手
2. 母指球筋の萎縮
3. 手背の知覚障害
4. 手背の発汗障害

はき 17-85 足の内側縦アーチを構成する骨で誤っているのはどれか。

1. 踵骨
2. 舟状骨
3. 立方骨
4. 第1中足骨

はき 10-89 関節運動で伸展 40° が可能な関節はどれか。

1. 肩関節
2. 肘関節
3. 股関節
4. 膝関節

あ 8-100 関節の種類でラセン関節に分類されるのはどれか。

1. 橈骨手根関節
2. 第1手根中手関節
3. 距腿関節
4. 肩関節

あ 2-101 脊柱について正しい記述はどれか。

1. 頸椎には回旋できる部分がある。
2. 胸椎は前弯している。
3. 腰椎は最も可動性が大きい。
4. 仙椎が前傾すると円背となる。

はき 9-90 手根管を通過しないのはどれか。

1. 浅指屈筋腱
2. 深指屈筋腱
3. 正中神経
4. 尺骨神経

あ 7-99 前腕にのみみられる動きはどれか。

1. 回内
2. 屈曲
3. 伸展
4. 内転

はき 2-90 手の内在筋はどれか。

1. 浅指屈筋
2. 深指屈筋
3. 指伸筋
4. 虫様筋

あ 28-83 下肢の運動と筋の組合せで正しいのはどれか。

1. 股関節の伸展 —— 半膜様筋
2. 股関節の内旋 —— 外閉鎖筋
3. 膝関節の伸展 —— 縫工筋
4. 母趾の背屈 —— 長趾伸筋

キーワード：筋収縮 03 問

あ 23-82 筋が伸長しながら収縮するのはどれか。

1. 強 縮
2. 単収縮
3. 遠心性収縮
4. 等尺性収縮

はき 5-90 筋収縮について正しい記述はどれか。

1. 等張性収縮は等尺性収縮より筋持久力の増大効果がある。
2. 等張性収縮は等尺性収縮より循環器系へ負担がかかる。
3. 等張性収縮はギプス固定中の関節の運動に適している。
4. 等尺性収縮は遠心性収縮と求心性収縮とに分けられる。

はき 1-91 筋収縮について誤っているのはどれか。

1. 求心性収縮とは張力を発生しながら筋肉の長さが短くなること。
2. 遠心性収縮とは張力発生の方で筋肉の長さが長くなること。
3. 等尺性収縮とは張力を発生するが筋肉の長さは変わらないこと。
4. 等張性収縮とは筋肉の長さの変化に応じて張力が等しく発生すること。

キーワード：深部感覚 01問

あ 3-100 深部感覚でないのはどれか。

1. 温度覚
2. 位置覚
3. 運動覚
4. 振動覚

キーワード：摂食嚥下障害 01問

あ 25-82 摂食嚥下障害に対する対応として誤っているのはどれか。

1. 口腔ケア
2. 食形態の調整
3. 栄養管理
4. 頰椎伸展位での食事

キーワード：錐体路障害 02問

あ 21-93 錐体路障害で生じるのはどれか。

1. 固縮
2. 鉛管現象
3. 共同運動
4. 腱反射消失

あ 25-83 錐体路の障害で生じるのはどれか。

1. アテトーゼ
2. 痙性麻痺
3. 運動失調
4. 筋の固縮

キーワード：錐体外路障害 01問

あ 20-97 錐体外路障害の症状はどれか。

1. 協調運動障害
2. 痙性麻痺
3. 固有感覚障害
4. 温痛覚低下

キーワード：運動障害 01 問

あ 10-97 運動障害について誤っている組合せはどれか。

1. 錐体路障害 ————— 痙性麻痺
2. 錐体外路障害 ————— 不随意運動
3. **脊髄損傷** ————— **固 縮**
4. 末梢神経損傷 ————— 弛緩性麻痺

キーワード：小脳性失調 02 問

はき 22-85 小脳性失調の所見として正しいのはどれか。

1. **構音障害**
2. 羽ばたき振戦
3. はさみ脚歩行
4. ロンベルグ徴候陽性

あ 24-80 失調症の検査として正しいのはどれか。

1. **指鼻試験**
2. 徒手筋力検査
3. カロリックテスト
4. トレンデレンブルグ徴候